

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は昭和51年の創立以来、生徒一人ひとりを大切にしている学校、地域に愛され、信頼される学校をめざしてきた。その伝統を受け継ぎながら、さらに生徒のニーズや保護者の期待に応える学校となることをめざす。具体的には、次の三つに重点を置く。

【1】生徒の自己実現を最大限に支援する学校 【2】すべての生徒が安全・安心に生活できる学校 【3】地域としっかり連携して生徒を育てる学校  
人権教育をベースとした系統的なキャリア教育を行うとともに、きめ細かな学習指導、生徒の安全・安心につながる生徒支援を教職員が一丸となって行い、生徒や保護者に「野崎高校に入学してよかった」と心から言ってもらえるような学校づくりを行う。

## 2 中期的目標

## 1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり

## (1) 生徒の「学ぼうとする力」を育成する

ア 1人1台端末等 ICT 機器を効果的に活用し、オンライン等を活用した学習支援を実施できるように進めるとともに、授業形態や授業方法を工夫改善することを通して、本校生徒にとっての「わかる授業」「できる授業」を行う。

イ 新型コロナウイルス感染症への不安や経済状況の悪化等による家庭環境の変化等を含む様々な支援の必要な生徒に対して SC・SSW・居場所スタッフ等外部人材と連携しながら生徒の自己実現を支援する。本校生徒の様々な学習活動の場として、またメンタル面から支援する居場所カフェの場として、図書室の有効的活用を図る

ウ 校内における教員相互の授業見学、初任者研修・10年経験者研修等による公開授業・研究協議への参加や、大阪府教育センターや大東市内中学校等で実施される研修・研究授業等に参加することで、教員の「授業力」を向上させる。

エ 新学習指導要領に対応したカリキュラム、本校の実情に対応した新たなカリキュラムを実施する。

※令和6年度までに、生徒授業アンケートの①「授業内容に興味・関心を持つことができた（興味関心）」と②「授業を受けて知識や技能が身に付いた（知識技能）」について、回答ポイント（満点4.0）を3.25以上にする。（①R1:3.10, R2:3.11, R3:3.23 ②R1:3.12, R2:3.14, R3:3.27）

※令和6年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「授業は分かりやすい」と②「自分は授業にまじめに取り組んでいる」について、肯定的回答率を①70%以上・②80%以上を維持する（①R1:62.2%, R2:68.4%, R3:78.6% ②R1:73.5%, R2:82.6%, R3:82.8%）。

## (2) 生徒一人ひとりの進路目標を実現する

ア 生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成できる、3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。

イ 地元企業・各種企業団体と協力した職場見学・インターンシップ、大学・短大・専門・専修・各種学校等と協力した学校見学や体験入学、各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やすことで、生徒の進路意識の向上を図る。

※毎年度において、学校斡旋による就職内定率100%と、理由のない進路未決定者0名をめざす。

※令和6年度までに、生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率とともに80%以上にする（生徒 R1:73.3%, R2:74.5%, R3:78.2% 保護者 R1:76.8%, R2:73.7%, R3:82.8%）。

## 2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり

(1) 新型コロナウイルス感染症への不安や経済状況の悪化等による家庭環境の変化等を含む様々な支援の必要な生徒に対して、きめこまやかな教育相談・教育支援の体制を構築することにより、困り感を抱える生徒の早期発見と早期対応につなげることで、問題事象の発生や不登校、中途退学につながることを防ぐ。

(2) 家庭や地域と連携した遅刻指導、服装・頭髪指導、挨拶・マナー指導等を通して、生徒の規範意識や自律心を育成する。

(3) 人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。

(4) HR 活動、生徒会活動、部活動、学校行事等において生徒が主体的に参加・行動する取組みを進めることで、生徒の自尊感情や自立心を育成する。

(5) 校内防災体制の整備充実と、卒業後を見越した生徒の健康増進を図る取組みを進める。

※令和6年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「マナーや校訓を守っている」②「頭髪・服装指導は適切である」③「遅刻指導・授業遅刻指導は適切である」について、肯定的回答率を①90%以上・②70%以上・③80%以上にする。

（①R1:85.9%, R2:92.5%, R3:92.0% ② R1:64.5%, R2:63.9%, R3:59.2% ③R1:73.7%, R2:73.6%, R3:71.1%）

※令和6年度までに、年間の登校遅刻延べ回数を10,000回未満にする（R1:10249回, R2:11171回, R3:10721回）。

※令和6年度までに、生徒向け学校教育自己診断「相談できる教員は担任以外にもいる」の肯定的回答率を80%以上にする。

（R1:74.8%, R2:77.5%, R3:77.4%）

※令和6年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「学校はいじめ・差別に対して適切に指導している」②「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」について、肯定的回答率を①85%以上・②90%以上にする（R1:78.2%, R2:79.2%, R3:84.0% ②R1:88.1%, R2:85.0%, R3:88.6%）。

※令和6年度までに、生徒の部活動の加入率を35%以上にする（R1:32.0%, R2:30.5%, R3:27.9%）。

※令和6年度までに、生徒向け学校教育自己診断「学校へ行くことが楽しい」の肯定的回答率を75%以上にする。

（R1:70.0%, R2:69.3%, R3:70.9%）

## 3 地域としっかり連携して生徒を育てる学校づくり

(1) 従来から実施されている各種地域連携行事に、本校生徒・教職員が今後も継続的に参加できる校内体制を整備する。

(2) 本校が中心となった地域連携行事を企画・実施する。

ア 近隣の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校の児童生徒と本校生徒が交流する機会を設ける。

イ 地元の保育所、小・中学校、高等学校、大学等の教職員と本校教職員が交流する機会を設ける。

(3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。

ア 本校ウェブページの学校ブログ等を定期的に更新することで、最新の情報を中学生、保護者、地域住民等に伝える。

イ 中学校への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。

## 4 教職員の働き方改革推進

(1) すべての教職員が、担当業務についての必要性と効率化を常に意識する習慣を持つことを全校的に推進する。

※令和6年度までに、教員一人平均の月当たり時間外勤務を25時間以内にする（R1:27時間, R2:27時間, R3:28.6）。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 4年 12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>(1) 全般的に</p> <p>① 生徒向け (25 項目)、②保護者向け (23 項目) の診断結果を肯定的回答率で分類すると、70%以上の項目については、生徒 16 項目 保護者 18 項目で一定評価されている。しかし、保護者の項目数は、昨年度と同じであるが生徒の項目数は、5 項目減っている。</p> <p>② 50%以下については、昨年度はなかったが、生徒「校舎内の清掃が行き届いている」「ホームページ・ブログなどで学校の情報をみている」の 2 項目であった。</p> <p>今年度は、比較的肯定的評価の高かった 44 期生が昨年度卒業したこともあり、全体的に数値が下がってしまった。一昨年と比べるとやや肯定的回答率も多く、本校の教育活動が一定の支持を得ているとは考えられるが、2 年生中心に数値が低下しており、全体的にも下がっていることに変わりはない。今後に向けて、さらに改善していく必要がある。</p> <p>○以下では、肯定的回答率が 50%台の項目と、前年より大きく変化のあった項目を中心に考察する。</p> <p>(2) 肯定的回答率が 50%台の生徒向け項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「校舎内の清掃が行き届いている」 (R2 41.0%→R3 51.7%→R4 45.4%) 校舎の老朽化が進みやむを得ない部分もあるが、数値的にもまだ低いことから、次年度も引き続き清掃指導の充実を図る必要がある。</li> <li>・「ホームページ・ブログなどで学校の情報をみている」 (R2 49.3%→R3 54.9%→R4 41.3%) ラインによる連絡と並行しておこなっていることも一つの要因ではあるが、今後に向けて、生徒により一層定着させる必要がある。</li> </ul> <p>(3) 前年度より大きく上がっている項目</p> <p>【保護者】「子どもが、野崎高校に入学してよかったと思う+6.0P」この項目では特に 2 年生の保護者が+11.4P と大きく上がっている。</p> <p>(4) 前年度より大きく下がっている項目</p> <p>【生徒】 「授業はわかりやすい」67.3% -11.3P 「ホームページ・ブログなどで学校の情報をみている」41.3% -13.6P 「野崎高校では、一人ひとりが大切にされている」60.7% -15.8P 「先生がパソコン等を使う授業はわかりやすい」76.5% -11.7P 「先生はわかりやすい授業のために工夫している」77.0% -11.1P 「LS を通して自分の成長を感じることができた」66.5% -12.9P</p> <p>【保護者】 「頭髪・服装指導は適切である 66.3% -11.3P」</p> <p>以上の項目が前年度より大きく下降している。 「授業はわかりやすい」67.3% 「野崎高校では、一人ひとりが大切にされている」60.7% など本校の根幹にかかわる部分に関して大きく低下していることは非常に重要に受け止めなければならない。大幅な定員割れにより多くの影響を受けている部分はあるが、次年度以降の大きな課題である。</p> <p>(5) 特徴的な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きめ細やかな進路指導がなされている」の肯定的回答は、3 年保護者 96.0% +1.6P に対し 1 年生保護者 56.5% -18.5P 早い段階からのキャリア教育が必要。</li> <li>・「遅刻指導・授業遅刻指導は適切である」の肯定的回答は、生徒 62.6%に対し、保護者 85.5%と大きなひらきがあり、保護者の理解は得てはいるが、生徒は不満を持っている傾向が見受けられる。引き続き粘り強く指導を進めていきたい。</li> </ul>	<p>第 1 回 (7/11)</p> <p>○R4 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長が「生徒指導から生徒支援に変えたことが大事だ」と言っていた。生徒支援部の話にもあったように規律指導ではなく、生徒と一緒に進めることが、いい成果を上げていることにつながる。</li> <li>・小中学校で不登校など経験し、「高校で通用するわけない」という生徒が、「野崎高校で変わる」というところがとってありがたい。</li> </ul> <p>○地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度はコロナで、里山ボランティア部の参加がほぼなかった。昨日、生徒と教員の参加があり、汗びっしょりであったが頑張ってくれた。意欲的に前向きに活動してくれていると感じた。森づくりクラブには後期高齢者が多いので、当初から生徒たちとの異年齢の交流ができています。</li> </ul> <p>○人権教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(同和教育は) 地域教育では厳しい、部落解放とか法律はできているが、地域では難しいことを学校に担ってもらっていて、ありがたい。生徒だけではなく先生方も学習しているので、野崎から異動した先生のつながりで講演依頼もあり、ある太鼓集団も野崎の生徒卒業生が多いので、その活躍の場が広がってありがたい。</li> </ul> <p>第 2 回 (12/1)</p> <p>○スクールミッションについて。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これは 10 年間の野崎高校がめざす学校と同じ内容になるので、野崎高校がこれから何をしていくのが大切であり、従来の学校教育計画が大切である。</li> </ul> <p>○遅刻・欠席について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとって授業が魅力的になっているかも左右する。授業アンケートの 8、9 番の項目がどういう結果になっているのかを再確認するべきである。</li> <li>・入学してすぐの時期は急に仲良くすることは難しい。しかし、行事をきっかけで仲良くなるので、タイミングよく行事をくめばいい。イベントを増やすことや体育大会や文化祭の時期を分けるのもよい。</li> <li>・遅刻は家庭での協力が大切である。保護者にも声掛けしてもらえると効果がある。</li> <li>・遅刻が多いことはダメなことはわかっているが、小中学校時代に不登校であった生徒が遅刻しても登校すれば、「よう学校来たな」とほめてあげる。複雑な家庭のヤングケアラーの生徒の遅刻と、遊んで遅刻してきた生徒は同じ遅刻であっても中身が違う。ヤングケアラーの生徒はほめてやる必要があるが、遊んでいる生徒は指導する必要がある。</li> </ul> <p>○広報について (チャレンジ野崎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校が多くて、どんな学校なのかわからない子が多い。ネットやホームページなどももっと活用し、イメージを回復して、楽しい学校とのイメージつけると希望者が増えるのではないかな。</li> </ul> <p>○通級関係について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校 2 年生での開始と聞いたが、希望があれば 1 年生時からの入級が望ましいのではないかな。</li> </ul> <p>○人権教育においては、当事者が高校時代などの苦労したことにプラスして、その後努力した結果成功したという話に、進路指導をからめていけば面白いと思う。</p> <p>第 3 回 (2/21)</p> <p>○学校経営計画・評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4 評価については、自己評価のマイナス 0.1 ポイントや「相談できる教員がいる」も下がったといっても誤差の範囲。70%以上、担任以外に相談できる教員がいるというのは、生徒から先生への信頼度は高いと思っている。生徒を大事にしている学校だと感じている。野崎高校に入ってよかったという肯定的評価が高いのは、遅刻やその他のマイナスを踏まえても、光明がある。校舎内の清掃が行き届いているという評価が半数以下とでているが、校舎内、体育館下トイレとかみたらきれいだと思う。</li> </ul> <p>○志願者確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方もよくやっているし、生徒のアンケートもよくこたえているという状況だが、ではなぜ、定員割れが続いているのかを考えていかなければならない。</li> <li>・検定、資格をのばしていけたら良い、合格したら自信がつき、さらに生徒ものびていったらいい。幼稚園や中学校と交流するのは「この先輩いいな」という感覚が募集活動につながる。</li> <li>・子どもから学校での話をしてくれる子なら情報はいるが、そういう子じゃないと保護者は学校について知らない。保護者側からすると、子どもと先生とのコミュニケーションの雰囲気などが伝わらない。長男が「野崎が最高」と言っていたので次男もいく、となった。一人ひとりを大切に学校というところも、子どもから聞いた話からすると親身に対応してくれていると感じるし、生徒が相談できる先生がいる、という環境を作ってもらっていることがいいことだと思っているので、このまま続けてもらいたい。このような情報がやっぱり重要で、イメージを良く変えていける方法があれば、希望する生徒が増えるのではないかな。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり	<p>(1) 生徒の「学ぼうとする力」を育成する。 ア 本校生徒にとつての「わかる授業」「できる授業」を行う。</p> <p>イ 図書室の整備・充実。</p> <p>ウ 教員の授業力を向上させる。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの進路目標を実現する。 ア 3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践。 イ 生徒の進路意識の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・教員研修の実施や教材等の情報共有により、オンライン教材作成のサポートを行い、ICT機器を活用したオンライン授業形態や授業方法の工夫改善をはかる。</p> <p>イ・図書室を授業や居場所カフェなど生徒の活動の場として、積極的に活用する。 ウ・校内での公開授業・研究協議の実施。 ・校外での研修・研究授業等への参加。</p> <p>(2) ア・3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。 イ・地元企業・各種企業団体と協力した職場見学・インターンシップを実施する。 ・大学・短大・専門・専修・各種学校等と協力した学校見学や体験入学の実施。 ・各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やす。 ・生徒が各種検定試験(①漢検②英検③ワープロ検定④数検⑤時事検定⑥情報処理技能)における資格取得をめざすことで進路意識の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・生徒授業アンケートで①「興味関心」②「知識技能」の回答ポイントを前年度より向上させる。 [①3.23・②3.27、満点は4.0] ・生徒向け学校教育自己診断の①「授業は分かりやすい」②「授業にまじめに取り組んでいる」について、①肯定的回答率を前年度より向上させる。②肯定的回答率を維持する。 [①78.6%・②82.8%] イ・居場所カフェの実施回数を昨年並みに維持する。[19回] ウ・校内で年間5回の公開授業・研究協議を実施。 [5回実施] ・年間で5名の教員が校外の研修・研究授業等へ参加。[11名が参加]</p> <p>(2) ア・就職内定率100%、理由なき進路未決定者0名をめざす[100%と0名]。 ・生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率を生徒・保護者ともに80%以上にする。[生徒78.2%・保護者86.5%] イ・各種進路行事(①大阪産業大学見学会②進路フェスタ③職業体験セミナー)への参加生徒数を15名以上にする。[中止] ・各種検定試験の受験者と合格者を昨年度より増やす。 [合格者数/受験者数は、漢検23/413、②英検4/10、③数検5/15、④ワープロ11/24、⑤時事検定(校内未実施)⑥情報処理4/5]</p>	<p>(1)数値的には0.1Pわずかに下がったが過去5年間の推移で見ると右肩上がりの上昇を維持することができた。 ア・①3.13(-0.10P) ②3.16(-0.11P) 達成(O) ・今年度大きく定員割れとなり課題を抱える生徒や高校生活に対するモチベーションの低い生徒の割合が増えてしまった。その結果肯定的回答率が下がった。次年度に向けてさらなる工夫をはかりたい。 ・①67.3%(-11.3P) ②79.2%(-3.5P) 未達成(△) イ・19回実施、情報交換会の実施等よりよい連携ができた。 目標達成(◎) ウ・7回実施(◎) ・10名参加(◎) (2) ア・学校斡旋就職内定率100%(◎) 生徒75.1%(-3.1P)保護者79.5%(-7.0P)・目標には達しなかったが3年生の進路指導においては生徒83.0%、保護者96.0%と非常に高い数値となっている。 達成(O) イ①14名参加(O)コロナ禍においてほぼ達成 ②未実施(△) ③2年生全員参加(◎) ・各種検定試験 生徒数の大幅減を勘案すると昨年度並みを維持できている。(O) ①漢検21/120、②英検2/14 ③数検5/16、④ワープロ11/15、 ⑤時事検定(未実施) ⑥情報処理0/1</p>

府立野崎高等学校

<p>2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり</p>	<p>(1) 教育相談・支援教育の体制を構築する。</p> <p>(2) 生徒の規範意識や自律心を育成する。</p> <p>(3) 他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。</p> <p>(4) 生徒の自尊感情や自立心を育成する。</p> <p>(5) 校内防災体制の整備充実と、卒業後を見越した生徒の健康増進を図る取り組みを進める。</p>	<p>(1) ア・教育相談委員会等の生徒支援体制を整備し、本校生徒の現状に合った支援を行う。 イ・本校生徒の家庭環境、発達特性等の理解を深めるための教職員研修を実施する。</p> <p>(2) ア・生徒へ注意喚起するとともに学校近隣特に校門前の交通指導を行う。教員による校外巡回、交通安全指導、校門立番等を実施する。 イ・生徒への啓発活動を工夫し、遅刻指導、服装・頭髪指導、挨拶運動等を効果的に実施する。</p> <p>(3) ア・コミュニケーション能力を高め、他者への理解を深めることにより、豊かな人権感覚を持った人材育成を図る学習を実施する。 イ・喫緊の人権課題に対応する教職員研修を実施。</p> <p>(4) ア・HR、生徒会、部活動、学校行事等で、生徒が主体的に参加・行動する取組みを進める。 イ・総合的な探究(学習)の時間で行う「コミュニケーションワーク」に関する教員の理解を深め定着を図る。</p> <p>(5) ア・教職員実働防災訓練を企画、実施する。 ・生徒避難訓練の内容を見直して実施する。 イ・地域の保健所と連携したヘルスアッププロジェクトを実施する。</p>	<p>(1) ア・教育相談委員会を前年度以上開催し、生徒支援体制を整備する。[11回] ・生徒向け学校教育自己診断「相談できる教員は担任以外にもいる」の肯定的回答率を前年度より向上させる。[77.4%] イ・年間2回の教職員研修を実施。</p> <p>(2) ア・生徒指導部中心に定期的な校外巡回、交通安全指導を実施。(年間6回) イ・年間の遅刻延べ回数を10,000回未満にする[10,721回]。 ・生徒向け学校教育自己診断の①「マナー・校訓遵守」②「頭髪・服装指導は適切」③「遅刻指導・授業遅刻は適切」について、①は肯定的回答率を維持、②③は肯定的回答率を前年度より向上させる。 [①92.0%・②59.2%・③71.1%] (3) ア・当事者とのプラスの出会いをプロデュースすることにより、生徒向け学校教育自己診断の「人権や命の大切の教育を実施」について、肯定的回答率を85%以上に維持する。 [88.6%] イ・年間2回の研修を実施。</p> <p>(4) ア・生徒会やHR等で生徒の主体的な取組みを増やし、より多くの生徒が活躍できるように工夫する。 イ・各学年の総合的な探究(学習)の時間で、コミュニケーションワークを年間3回実施する。 以上のことにより生徒向け学校教育自己診断の「学校に行くことが楽しい」について、肯定的回答率を前年度より向上させる。 [70.9%]</p> <p>(5) ア・地域と連携し、生徒避難訓練と合同した実働防災訓練を年1回実施。 イ・保健所と連携した年間1回のプロジェクトの実施。</p>	<p>ア・9回(○)月1回の定例会議に加え随時ケース会議を実施し、より機動的に細やかな支援が出来る体制をとった。 ・74.0%(△) イ・4回実施(◎) SC、SSW、CC、福島県立医大の倉澤教授による研修を実施</p> <p>(2) ア・6回実施(◎)定期的な6回に加え随時校外巡回、交通安全指導を実施した。 イ・12,793回(△) ①89.2%(○) ②56.2%(△) ③62.6%(△) ①については、ほぼ9割の生徒が肯定的に回答した、②③についてはより丁寧な説明したうえで取り組むことが重要。 (3) ア・84.5%(○) ・学年ごとにテーマを決めた人権問題における被差別当事者の方々の講演会等を実施、肯定的回答は若干下がったが、各学年とも内容は充実した。しかし、生徒数減に伴い講師謝金等の不足から次年度は生徒向け講演会の回数を減らさざるをえない。 イ・4回実施(◎) (新、転任者研修を含む) (4) ア・体育大会、文化祭、球技大会かたるた大会等コロナ対応による制限は残ってはいるが、各行事とも工夫しながら実施できた(◎) イ・3回実施(○) 肯定的回答率62.3%(△) 1(1)アと同じ</p> <p>(5) ア・11月に全国瞬時警報発令時(Jアラート)によるミサイル発射情報に対する避難訓練を含み実働防災訓練を実施(○) イ・予定通り実施(○)</p>
<p>3 地域としっかり連携して生徒を育てる学校づくり</p>	<p>(1) 各種地域連携行事に、本校生徒・教職員が今後も継続的に参加する。</p> <p>(2) 本校が中心となった地域連携行事を企画・実施。 ア 近隣諸学校園の児童生徒と本校生徒の交流 イ 近隣諸学校園の教職員と本校教職員の交流 (3) 広報体制を確立する。 ア 本校ウェブページの充実。 イ 中学校への広報活動の充実。</p>	<p>(1) ア・だいたい森づくりクラブ(里山ボランティア)、地域教育協議会、ふれ愛教育協議会、中小企業同友会等の交流・協力関係を今後も維持する。 イ・本校生徒と教職員による校地内を含め、地域清掃活動を継続して実施する(野崎レポリューション)。</p> <p>(2) ア・近隣諸学校園の児童生徒と本校生徒が交流する行事、部活動、授業等を設定する。 イ・近隣諸学校園の教職員と本校教職員による、合同研修や研究授業等を実施。</p> <p>(3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。 ア・本校ウェブページの学校ブログ等を定期的に更新することで、最新の情報を生徒、保護者や地域住民に伝える。 イ・中学校への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。</p>	<p>(1) ア・昨年度参加できなかった地域連携行事に、今年度は生徒・教職員が参加できるようにする。 イ・年間3回実施[1回]。</p> <p>(2) ア・本校生徒による出前授業や部活動での中学生との合同練習等を実施し、本校出願者数を昨年度より増加させる。 [未実施]。 イ・年間2回の研修等を実施し、教員の人権意識を高めることはもちろん近隣校との交流も深め、各教員の人権感覚を育てていく。 [近隣高校との合同研修を2回実施]。</p> <p>(3) ア・ブログの更新を平均週4回以上(約200回)行う。[3/17までに313回更新] イ・本校生徒による出身中学校訪問の実施。 [40校] ・本校出願者の増加[130名]</p>	<p>(1) ア・だいたい森づくりクラブ(里山ボランティア)、地域教育協議会、ふれ愛教育協議会、中小企業同友会との交流に参加(○) イ・年間3回実施(◎)生徒数減の中、校地内を含め区域を拡大して実施 (2) ア・近隣諸学校園の園児と本校生徒が交流する、授業を復活することができた。 ・部活動での中学生との合同練習等を実施できた。また、大東市教育委員会と連携した取り組みを模索中。(○) イ・緑風冠高校と合同職員研修を集合開催を含み2回実施(○) (3) ア・ブログ更新は2月末/現在295回で、1日1回のペースで更新できている。(◎) イ・生徒による出身中学校訪問は20校(昨年40校)、生徒数の大幅減と夏のコロナの影響。(○) ・校外開催の学校説明会を復活、校外開催の学校説明会は4回実施、参加人数は若干の減少があったが、参加中学校数は増加し、広報活動としては一定の成果があった。 ・出願者数[112名](△)</p>
<p>4 き方改革推進 教職員の働</p>	<p>(1) 全ての教職員が担当業務についての必要性と効率化を常に意識する習慣を持つ。</p>	<p>(1) ・管理職、首席、分掌、学年、各種委員会、事務室等の立場から業務の見直しを行う。</p>	<p>(1) ・教員一人平均の月当たり時間外勤務時間を、各自前年度より1時間減らす。[28.6時間]</p>	<p>(1) ・教員一人平均の1か月あたり時間外勤務時間は、約25.9時間。(○)</p>